

一般社団法人国際介護人材育成事業団

2020年度 第2回理事会議事録

日時：2020年10月17日（土）13時35分～16時45分

会場：公益社団法人 大学コンソーシアム京都の5階 第5演習室（京都市下京区）

（敬称略）

出席者：（理事）金澤 剛 福本京子 小沼正昭 上野 歩 小國 英夫 佐藤 健二
宮本 信 宮脇 棟次郎

（監事）石原 温 松本 典丈

参会者：（オブザーバー）

江口 幸一 松下 啓子 前田 仁 佐藤 高之 橋本 武也
井上 茂樹 小林 義文 大塚 進 鈴木 一登 清水 万由

配布書類：理事会の議案書（事前資料）、同（当日資料）

○招集と定足数

金澤理事長より、10月9日、定款35条1項に基づき、2020年度第2回理事会を招集、又、13時35分現在、理事総数の過半数以上の理事8名全員が出席し、定款37条1項に基づき、本理事会は有効に成立したことが報告された。

又、理事会規則（（関係者の出席要請）第4条に基づき、上記のオブザーバーを理事会に出席させることを報告。その後、金澤理事長が議長に就き、開会を宣言、議事に入った。

○特別報告 ①『NPO ReCAの活動紹介とディサービス陽だまりにおけるボランティア活動を終えて』

NPO Re-CA（レカ）の大塚 進さんから、Rehab-Care for ASIA の概要と活動内容の報告を受け、その後、鈴木 一登さんから、ディサービス陽だまりにおけるボランティア活動を終えて、介護現場の実習から見える実習生の可能性や暮らしの面で、気づいたこと、感じたことを報告いただいた。

実習生と自分の教育もかねて、法定の介護講習の「介護の基礎」を学習したが、現場の介護を実践して、あらためて学習すると驚くほどの理解度でそれを理解始め、可能性を秘めていることを確認できたようだ。

他方、実習生の多くは、職場と住まいの往復で、地域や他の人々との交流も少なく、暮らしの面では、不安と課題を抱えているのが現実だと指摘を受けた。

又、オブザーバー参加した福井の小林 義文さんから、『ミャンマーにおける僧院事業として「介護事業を」試みる』（参考資料）に対し、事前に意見を頂き、参加者で共有することを確認した。

○特別報告②『事業団第2幕の幕開けを前にした若干の整理』

金澤理事長から、理事会の議案書（事前資料）に基づき、その要旨を説明してもらい、質疑を行った。以下のような、質問や意見を頂いた。

- ・介護現場の人材不足にも関わらず、外国人介護技能実習生の受入れが想定したほど進んでいない。増えない要因の一つに、日本人を採用するより、経済的なコスト（費用）がかかり過ぎることが指摘される。いかがか。
- ・かかるコストの問題は、直接、間接的な採用のためのコスト、採用の歩留まり、介護現場の活性化や事業への影響など総合的に評価も必要だ。
- ・海外からの介護人材の流入が増えているのか？特に、入国した介護技能実習生の実態について把握する必要がある。
流入が進んでいる法人形態、事業の種類（入所系、通所系、小規模多機能）などからも、実態を見ておく必要がある。
- ・昨年12月、熊本でミャンマー実習生の現況報告会を開催したが、一法人の団体加入とその後第3期生の受け入れ並びに一人の個人の加入が決まったが、熊本の中心的法人約10法人以上の参加者数と現場の困窮具合に比してことのほか加入が少ないのはなぜか。
- ・来日した実習生への高い評価は、AAMの募集から送り出しまでの仕組みと教育内容の賜ともいえる。この人材往来には、顔の見える関係と一定のスケールメリットも欠かせないので、このリセットは、慎重に進めてもらいたい。
- ・介護2号の修了後の進路問題と絡んで、国際的な介護人材の循環は現実的な課題。ミャンマーの環境も大きく変化しており、競争原理による複数配置、リスクの回避の観点からも送り出し機等のリセットを検討すべきだ。
- ・東南アジア諸国での可能性を考えた場合、介護技能実習生には、日本の特養等の入所者ケアシステム（箱ものケア）だけではなく、地域ケア、在宅ケアを大いに学び実践してほしい。

○審議事項

1. 第1号議案 顧問選出の件

議長は、小沼専務理事より、理事会の議案書（事前資料）に基づき、第1号議案の提案要旨等を説明させ、質疑を議場に諮ったところ、ご本人の固辞もあり、議案を取り下げることにした。

2. 第2号議案 第3期生の受入れと第4期生の応募、選考面接の件

議長は、小沼専務理事より、理事会の議案書（事前資料）に基づき、第2号議案の提案要旨等を説明させ、質疑の後、議場に諮ったところ、全員異議なく、提案要旨を賛成、可決した。

質疑では、N4相当で入国する実習生に対する、日本語教育支援の内容向上と責任を持ち、

N3相当合格に向けた目標管理を徹底すること。又、第4期生の選考面接にあたり、事前にN3相当の日本語試験の模擬テストを実施し、この結果を公表し、選考の参考となるようにしてもらいたいとの要望を頂いた。

3. 第3号議案 トヨタ財団の「外国人材の受け入れと日本社会」助成と応募の件

議長は、小沼専務理事より、理事会の議案書（事前資料）に基づき、第3号議案の提案要旨等を、一部誤字の訂正の上、説明させ、質疑の後、議場に諮ったところ、全員異議なく、提案要旨を賛成、可決した。但し、質疑では、現時点では、プログラムの趣旨と企画書との齟齬もあることから、企画書の必要な見直しを行うことを確認した。

○一般報告

議長は、小沼専務理事より、理事会の議案書（当日資料）に基づき、第4期生の応募状況の一部修正の上、一括して説明させ、質疑を諮った。

又、次回の第3回理事会を、2021年1月16日（土）、熊本で開催することを確認し、この開催方法の詳細は、ブロック担当理事と協議の上、進めていくことを確認した。

議長は、以上をもって、議事審議を終了し、16時45分に閉会を宣言して散会した。
以上、相違ありません。

2020年10月17日

一般社団法人 国際介護人材育成事業団

代表理事 金澤 剛 理事 福本 京子 理事 小沼 正昭 理事 上野 歩

理事 小國 英夫 理事 佐藤 健二 理事 宮本 信 理事 宮脇 棟次郎

監事 石原 温 監事 松本 典丈

以上